

日本農業新聞

農作業事故への危機意識

未経験者ほど薄く

共済連調査

農業の未経験者は、従事者に比べ農作業事故に対する危機意識が薄いことが、JA共済連の調査で分かった。異常気象や自然災害、不作などを強く心配する一方、農作業中のけが・事故への不安を意識する回答は従事者に比べ少数派だった。新規就農者らに、農作業安全への意識をどう高めてもらうかが課題と

言えそうだ。

調査は「春の農作業安全確認運動」に合わせ、10～50代の男女約1万人を対象に実施。このうち農業に5年以上従事している100人と、農業に興味がある未経験者600人に「農業で心配に感じること」を複数回答で聞いた。

5年以上の農業従事者のうち、45%が「農作業中のけが・事故」を挙げ、自然災害に次いで2番目に多かった。7割が、農作業時

農業未経験者が心配に感じること

1位	異常気象などの天候不良
2位	地震・台風などの自然災害
3位	不作
4位	温暖化など気候変動
5位	後継者・労働力不足
6位	伝染病・害虫の発生
7位	値崩れ
8位	人件費・輸送費の高騰
9位	風評被害
10位	農作業中のけが・事故

※複数回答 (共済連の資料を基に作成)

に事故の危険を感じる「ヒヤリハット」の経験があると答えている。一方、未経験者の

「農作業中のけが・事故」の回答数は10番目(38・5%)。天候不良や自然災害の他、人手不足、病害虫などへの心配を下回った。農作業中のけがや事故を防ぐための体験プログラムは、農業経験者と未経験者ともに約7割が「体験したい」と答えた。共済連は仮想現実(VR)を活用したプログラムの提供などを進めている。農水省が先週発表した2022年に発生した農作業事故の死亡者は2388人。前年から4人減ったが、農業従事者10万人当たりでは0・6人増の11・1人で過去最高だった。